

特別インタビュー アネット・ウインクラー氏（ダイムラー社スマート責任者）

伝統と革新の街 京都にぴったり パーフェクトな街のり、それが「スマート」

小さなボディに、先進のテクノロジーを詰め込んだメルセデス生まれの「スマート」。このたび、ドイツ、ダイムラー社にてスマート責任者を務めるアネット・ウインクラー氏が来日。スマートの魅力はもちろんのこと大都市との関わり、販売拠点となる京都への思いなど日本初のスマート専売店、smart center 京都the gardenにて支店長代理、松島鴻太がウインクラー氏にお話を伺いました。



ダイムラー社 スマート責任者
アネット・ウインクラー氏

西ドイツ・ヴィースバーデン出身。1995年にMercedes-Benzグループに入社後、シニアディレクター、広報やコミュニケーション部門のトップの役職を歴任。現在は、ドイツの自動車メーカー「ダイムラーAG」smart自動車部門のCEO兼ディレクター。

松島 まず、スマートの魅力についてお聞かせください。

アネット氏 ひとこといでいえば、大都市で誰もが安心して走ることのできるパーフェクトな機能を持っている唯一のクルマであるということです。スマートは、全長が2メートル69センチという非常にコンパクトなクルマです。しかし、コンパクトでありながら、プレミアムな大型車と同等の安全・安心な運転環境を実現しています。また、ボディにプラスチックパネルを使用することで、非常に軽量で卓越した小回りの良さを叶えました。京都のような狭い道が多い都市を走るにはパーフェクト、申し分のないクルマといえます。

さらに、私たちが大切にしたのは「スマートが」乗っていて楽しい「見えて楽しい」クルマであるということです。スマートのフロントデザインは、大変キュートでしょう。スマートを運転している人、そしてスマートを見かけた人が思わずスマイルしてしまうような、そんな楽しいクルマであることもスマートの大きな魅力であるといえます。



トリディオンセーフティセル。強固な高強度スチールの使用比率を高めることであらゆる方向からの衝突時に乗員を保護します。

松島 小さなクルマは安全性能が心配されがちですが…

アネット氏 スマートには「トリディオンセーフティセル」という高強度なスチール製の骨格構造を採用しています。これは、わかりやすく言うと、万一の衝突から運転者や同乗者を守る、硬いクルマの殻のようなもの。その見た目から可愛らしいクルマという印象が強いですが、安全性に関しては開発以来、メルセデスの安全思想が凝縮され高い水準の性能を固持しています。

スマートのお客様は、いつも前向きで常に何か新しいもの、独創的なもの、特別なものを求めているらしいです。そんなお客様の趣向と京都の街や文化がマッチしている、だからこそスマートの販売拠点到るべきだしと考えるのです。

京都の道は美しいですが、狭くとも入り組んでいますね。私は、狭い道に遭遇して、ストレスを感じるお客様をたくさん見てきました。でも、スマートなら小回りが利くので、ストレスを感じることなくスムーズに運転ができます。

そして、京都を販売拠点に選んだもうひとつの理由としては、マツシマホールディングスという、素晴らしいディーラーが京都にあるからです。ここには、しっかりとしたビジョンを持ち、スマートのブランドを愛してくれるスタッフがたくさんいます。そして、何よりお客様がスマートというクルマを介してハッピーになれるようにサポートしていただいています。愛するスマートの販売拠点に、申し分のない環境です。

smart center 京都,the gardenの2階、伝統的な日本家屋を現代的にアレンジしたゲストルーム。窓の外には美しい日本庭園が望める。

また、スマートのサイズですがこれまでの2人乗りの「スマート・フォーツ」に加え、4人乗りの「スマート・フォーフォー」が新しく加わりました。クルマの全長と車内空間の広がりを考えれば、世界でもこれほどベストバランスをもったクルマはないでしょう。ほぼ90度にドアが開くので、大きな荷物でも簡単に出入れすることも可能です。

松島 京都を日本で初めての販売拠点に選ばれたのは何故ですか。

アネット氏 京都は、パーフェクトなスマートシティだと思います。伝統と革新性、ふたつの魅力を兼ね備えているのが京都という街です。



未来の「フォーツ」の方向性を示唆したコンセプトカー、「smart vision EQ fortwo」。AIと連携して車両間、他の利用者、歩行者などとコミュニケーションをとり、完全自動運転が可能です。

松島 マツシマに期待することをお聞かせください。

アネット氏 スマートのブランドに対する情熱と一緒に共有していきたいですね。今、現代社会はさまざまな困難やリスク、悪影響にあふれています。しかし、それらを改善しよりよい方向へ導いていくためにも、私たちが思いを共有し共に大都市や社会に貢献していけたらと思っています。ここ京都で、スマートの新しい歴史を一緒に作っていきましょう！



「インタビューを終えて」

松島 鴻太

ウインクラー社長とお会いし、たくさんのお話を聞きました。社長はスマートに対しての愛情、情熱が身体中から溢れておられました。そして何よりその人間性です。スタッフ一人一人に対しての細やかな気配りから強烈なリーダーシップを感じました。スマートセンター 京都への期待も語っていただいて、私自身、より一層責任感が増しました。社長から感じたスマート愛、そして情熱を前面に押し出してマツシマホールディングス、スマートセンター 京都スタッフ一丸となって日本のスマートを牽引していきます。

